

補聴器で認知症予防

1面から

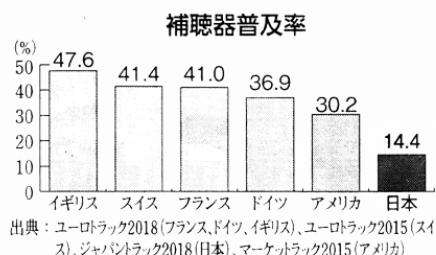
超高齢社会のなかで、誰でも何らかのコミュニケーション障害を将来的に持つ可能性がります。その意味でも、補聴器で早いうちに対策をとるのが認知症の予防に効果的です。

まず自己点検、チェックリストなどで判断することや、周りの人が気づいて本人にすすめるのも一つです。生活する環境によって違うので、会話に問題が起ってきたら早めに耳鼻咽喉科を受診しましょう。

脳のトレーニング

メガネと違い、補聴器を付けたからといってすぐ快適に聞こえるわけではありません。補聴器から入ってきた音を、脳の中で言葉として理解するための調整とリハビリが必要です。それを知らずに購入して、「うまく聞こえない」とやめてしまう方が多い。「一年寄のくさく見える」と

日本はイギリスの3分の1以下



いう偏見もありますが、補聴器がどういうものかを理解しないで購入する人が多く、諸外国と比較しても日本の利用率は上がっていません。

人生100年時代を迎えています。脳がリハビリの働きかけに応じて変化する能力は、若ければ若いほどあるわけです。言葉を正確に聞き取れないという段階から、補聴器にちゃんと慣らして、補聴器の音に脳をトレーニングしていくと、80代、90代になってもうまく使えるのです。

生活の質の向上のために

通販や量販店でも買えますが、まずは日本耳鼻咽喉科学会の補聴器相談医を受診してください。相談医はすべての都道府県にいます。そこで補聴器適合に関する診療情報提供書をもらい、認定補聴器技能者がいる販売店で購入するとよいでしょう。

基本的な性能を持ったものは片耳で10万円台、両耳で20万円台から購入できます。音楽や演劇を楽しみたい、など特殊な用途には、ある程度のグレードが必要ですが、一般的なコミュニケーションにそんな高いものは必要ありません。ただし、雑音の中から必要な音を聞きとるためには、両耳の補聴器が必要です。

2018年4月からは、補聴器相談医の診断を受けて、認定補聴器専門店あるいは認定補聴器技能者のいる店舗で購入すると、医療費控除を受けられる制度もできました。公的な補助をしている自治体

も一部にあります。

国も高齢者の社会参加を、と促していますが、会話が成り立たなかったら社会参加できません。補聴器は必需品です。

将来的な認知症になるリスクを考えて、ご自分の将来設計の中で認知症を予防するためにも、人生の中でどの段階で補聴器が必要になるかを、

補聴器は微調整しながら

認定補聴器専門店ブルーム赤羽店店長 認定補聴器技能者

岩下ふさこさん

補聴器には耳かけ式、耳穴式などがあり、最近では小型化して目立たないものやカラフルなものなど、デザインもさまざまです。その方の生活環境に合う補聴器を、一緒に相談しながら選んでいます。

補聴器が必要な方は、脳が音の聞こえない状態に慣れているので、使い始めて最初の1週間は、1日3時間程度にとどめ、音のある状態に慣れることから始めます。2週間後、1カ月後と効果を確認しながら、受容できない不快でない音量に微調整していきます。

個人差がありますが、3カ月くらい経つと1日に7時間ほど装着できるようになり、違和感が減る方が多いようです。効果が測定で数値化される聴力の変化は、目で確認できるため、お客様の張り合いにもなっています。

補聴器の耐用年数は、使い方やお手入れの仕方によって異なりますが、5年程度です。

補聴器を使って、はつらつとした生活を送っていただきたいですね。

みなさんに考えていただければいいですね。

「歴史資源活用計画」についての学習会が行われました

2月12日に「歴史資源活用計画」についての学習会が「みんなで街づくりを考える会」(大野新策会長)主催で行なわれました。29名の方々がご参加され、大洲市の担当課職員の方から説明がされました。

参加された方から多くの疑問が出されましたが、担当課職員が答弁できない範囲は、まとめて、大洲市長に提出することになりました。

『今回の古民家活用計画や、大洲城のお泊まり体験など白紙に戻して、広く市民に説明と、声を聞く場を作ってください。』と要望することになりました。

○民間ファンドの審査がOKなので、無担保無保証で貸してくれると言うが回収の見通しはあるのか。

○松井邸は古くて、改修に莫大な経費がかかる。本当に1億5000万円出できるのか。などの意見が出されました。



補聴器購入への補助を議会で要望しています

早めの補聴器で認知証予防ということで、新婦人しんぶんにも右のような記事が載っています。補聴器の普及率は、日本はイギリスの3分の1以下です。公的な補助をしている自治体もあります。生活の質の向上のためにも、大洲市でも補聴器購入への補助を求めてまいりましょう。